



大阪錦繪新聞

相刃江の鳩の浪文お本作兵三の娘さくは
今歳十九にて行瀬村森田安次良方へ
同村富次が縁約にて嫁入る一翌日
親類巡り縁約の家より行き富次の
女房をめぐり挨拶せんとして思ひぞ
フウと大きな放屁を落せしがあつめ
もだまつて居るよき小こましく物め
のぢでか何ものか土産を我らあつめ
あざむり笑ひし嫁の顔と真赤はて
貶場宅へ嫁りし親類もいづく
人殺さるる残念の書れきにて死せしが安次良
ハ大い小驚きかゝるの死の首を切書れきこともし小
富次が宅へ持行をめぐり見せしをくみ見て激罵きし
過言より花嫁と親し事言ひしと自殺せしが安次良
富次が言ひきしと身と投りしを放屁一ツで三人が
命と云々と落し所をい尻の有と諸新聞紙よ可なり
行たのハ尻の筒をきし一ツ發で
之人こゝろをいんご尻の玉
銀水

歌九

板元石如

